



ブーメラン世界チャンピオン

梅井 靖弘

Yasuhiro TOGAI



PROFILE

- トピックス
2008年3月、梅井製作の紙ブーメラン「ドリームシャトル」が、スペースシャトルに搭乗した土井宇宙飛行士と共に宇宙へ行く。
- 主な競技実績
2014年世界大会(オーストラリア)団体戦・総合優勝
2006年世界大会(旭川)個人戦オーゼラウンド種目世界1位
2004年ブーメランジャパンラップ(熊本)総合優勝
ブーメラン世界大会 10大会日本代表
- DVD
ブーメランの楽しみ方 ~小学校の親子レクリエーション~
- 紙ブーメランの本
「紙ブーメラン」「投げろ!紙ブーメラン」(誠文堂新光社)
「紙ブーメラン&ヒコーク」(ひかりのくに)

ホームページ <http://www.kbn3.com>

平面の翼のような板が、空中で弧を描き、自分の元に戻ってくる不思議。その動きを初めて目の当たりにした青年は大きなカルチャーショックを受け、その後の人生も大きく変わったという。回転しながら飛行し元の位置に戻るブーメラン。その魅力に取りつかれ、ついにはブーメランプレーヤーとなり世界大会の常連にもなった。

活動をはじめた22年、彼はブーメランプレーヤーとして競技に打ち込むだけでなく、子どもたちに投げ返ってくる不思議を伝え、笑顔を広げる活動にも喜びを見出している。

ブーメランプレーヤーとして活動する大阪狭山市の梅井靖弘さん。42歳、かっこいい現役の世界チャンピオンだ。身長181センチ、がっちりとした体から力強いフォームで3枚翼のブーメランが投げられると、上空に舞い上がり左旋回で大きな弧を描いて正確に手元に戻ってきた。そばに居合わせた高校生らが思わず息を飲んで、梅井さんのブーメランに釘付けになった。

梅井さんとブーメランの出会いには、22年前、大阪経済大学2年生の頃にさかのぼる。ブーメランはなぜ戻ってくるのかなど、日常の不思議を研究する数学博士の西山

豊教授のゼミに興味をもったものの、専攻の希望者が多く、梅井さんは西山教授の面接に臨むことになる。その時、教授が飛ばしたブーメランがスーッと手元に戻るのを見た感動のカルチャーショックは衝撃的で、何が何でもこのゼミに入ろう思ったという。その時から、梅井さんのブーメラン人生がスタートした。

では、その草分け的存在というだけでなく、世界大会はじめ、ほかの競技実績についても常に上位入賞のエキスパートなのだ。2006年の世界大会での個人戦種目別1位を機にメディアで話題になり、科学番組からバラエティ番組まで、多くのメディアに登場し、飛ぶ科学を披露している。つい最近ではバラエティ番組で、ビールサーバーの取手をブーメランでオンオフ操作するような神業的な事をやって見せた。



世界中から注目を浴びるきっかけにもなった。「自分のアイデアが実現し、ブーメランが宇宙船の中を飛ぶ実験映像には、何が何だかわからないくらい興奮した」とその時を振り返る。

どんな環境下でも
風をよみ、
状況判断する醍醐味

「40歳を過ぎ、体力は落ちてきているが、これまでの経験値が今の自分のスキルを確実にアップさせている。まだまだ進化中なのは確かです」おっとりとした物静かな印象の梅井さんだが、マニュアルもなく手探りの多い世界で22年間も個人競技に打ち込んだきた実感がこもったひとことだ。



Many Happy Returns!!

「世界でひとつのオリジナルブーメランを作ろう」と講習会では、まず梅井さんの飛ばすブーメランを見た子どもたちが一斉に笑顔になるという。自分で色を塗り、型を切り抜き、投げてキャッチする感覚の楽しさは大人も子どもも関係なくハッピーになれる。「ブーメランによって、たくさんの幸せが戻ってくるよ」とメッセージを込めた活動だ。

